

おしえて！

感染症 さがみはら

2026年5月



今月の注目疾患：水痘（水ぼうそう）

水痘（水ぼうそう）は水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で、感染者の咳やくしゃみ、水疱の内容物に含まれるウイルスによって感染します。

コロナ禍には報告数が減少していましたが、近年増加傾向にあり、昨年はコロナ禍以前と同程度の報告数となりました。今後の動向に注意が必要です。



経過



初感染(水痘)

初感染から2週間程度経過すると水痘を発症します。38℃前後の発熱ののち全身にかゆみのある発疹が発生し、水疱(水ぶくれ)を経てかさぶたになります。成人の初感染は重症化しやすいので注意が必要です。



潜伏期

水痘が治ったあともウイルスは排除されず、長く体内に潜んでいます。



再活性化(带状疱疹)

加齢やストレス等で免疫力が低下すると、体内のウイルスが再活性化し带状疱疹を発症することがあります。体の片側にピリピリとした痛みが出て、その後発疹や水疱が発生します。

予防するには

・ワクチン接種

1歳から3歳未満の乳幼児を対象に2回の定期接種化がされています。接種機会がなく水痘にかかった事もない方は、任意での接種も可能です。また、2025年度から、65歳の方などへの带状疱疹ワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。

・基本的な感染対策

接触・飛沫感染が主な感染経路です。手指消毒や手洗いである程度予防できます。



～妊婦と水痘～



妊娠中に初感染すると胎児にウイルスが移行



流産
先天性奇形
新生児带状疱疹
等の可能性

妊娠中に水痘ワクチンの接種はできません！

妊娠を希望される方で、水痘感染歴・ワクチン接種歴がない方は医師にご相談ください。

発症してしまったら

■発症中は登校・登園停止

すべての水疱がかさぶたになるまでは出席停止となります。

■水疱はかかない・つぶさない

傷口から菌が入り、痕になってしまう可能性があります。

■発疹・水疱がなくなるまでは注意

水痘・带状疱疹ともに発症中は感染力があります。ワクチン未接種・未感染の人との接触は避けましょう。



○保健所医師のコメント

水痘はかつては小児期に多くが自然感染する疾患でしたが、現在はワクチンにより安全に免疫を獲得することが基本です。ワクチン接種をしても、免疫低下時などには水痘や带状疱疹を発症することはありますが、重症化予防のためにワクチン接種の意義は大きいと考えられます。水痘ワクチン（小児）および带状疱疹ワクチン（主に高齢者）はいずれも定期接種となっており、対象年齢の際には接種が推奨されます。

電子版(PDF)は感染症情報センターHPに掲載中！⇒



相模原市 感染症情報センター



発行 相模原市衛生研究所